

## オープンキャンパス情報 リベラルアーツ学科の体験講義



大正時代、『日本少年』という人気雑誌がありました。読者たちは勇ましい冒険記事に心を躍らせ、不幸な境遇でもけなげに生きる少年の物語に涙します。そんな少年雑誌の世界をのぞいてみましょう。

『日本少年』大正4（1915）年2月号表紙



ゲームやマンガのキャラでおなじみの日本の神々ですが、今回は、ワニに襲われて毛をむしられた白ウサギを、オオクニヌシ神が助ける話をします。でも日本の神話なのにどうしてワニが出てくるのでしょうか？

ちりめん本『The Hare of Inaba』表紙（弘文社、1886年）

### 大正男子の涙とロマン—大正時代の少年雑誌

担当 伊藤 かおり 講師

8月24日(土)11:50~12:30

### 楽しい日本の神話

担当 及川 智早 教授

9月15日(月・祝)11:50~12:30

8月2日(土)、3日(日)のオープンキャンパスにお越しくださり、ありがとうございました！みなさまから寄せられた感想の一部をご紹介します。



写真上:お見送りをする学生スタッフ 右下:大学概要説明会場へご案内  
左下・中:8/3体験講義「江戸の文学は妖怪だらけ」。

- ・リベラルアーツ学科でどんな内容の講義を学ぶか分かってよかったです。
- ・図書館に感動した！  
夢ナビの時の福島先生に会えてよかったです。
- ・妖怪の話がおもしろかったです。
- ・グリム童話についてたくさん学べてよかったです。
- ・児童文学を希望しているため、今日の講義はとても楽しかったです。
- ・グリム童話「ねむり姫」をはじめで知ったのですが、とても奥が深いなと思いました。
- ・リベラルアーツ学科の学生トークを聞いて少人数のクラスや先生とのコミュニケーションを深めることができる事を聞いて、ますますこの大学に入りたいと思うようになりました。
- ・学科ブースで細かいことが聞いてよかったです。
- ・資料だけじゃわからないことまで分かってよかったです。
- ・雰囲気が良かったし、みんなやさしかった。
- ・2日連続で参加させていただいたのですが、とても楽しく、参考になりました。
- ・先生や在学生の説明がわかりやすかったです。



## リベラルアーツ学科のWhat's New

### 韓国青年訪日研修団が来訪

8月5日（火）、日韓文化交流基金主催の韓国青年訪日研修団40人が本学を訪れ、リベラルアーツ学科の学生と交流しました。狭山キャンパス茶室での茶道体験や、日韓の学生が両国の文化比較を行う2つのグループワーク、本学学生のプレゼンによる関西紹介など、盛りだくさんのプログラムを参加者全員が楽しみました。パーティー形式のランチタイムが終わると、両国の学生たちの親密度はますますアップ。交流会の最後には、阪神タイガースの応援でおなじみのジェット風船を全員で飛ばして、大いに盛り上がりました。



### 留学生便り

北京大学に留学中の岩崎 有希子さん（4回生）より

北京大学での生活も、あっという間に半年。他の国の学生のスピーキングレベルが高く驚きます。でも授業中はもちろん、クラスメイトと話すときも全てが中国語なので、聞き取りは確実に上達。世界遺産や観光名所だけでなくショッピングモールも多いので、土日も退屈しません。地下鉄やバスを使えば2元(33円)でどこまでも行けます。

留学前、中国に対する印象は良いとは言えませんでした。日本の目線でしか中国を知らなかったからです。中国で生活をし、たくさんのことを吸収した今、留学に来てよかったというのが実感です。毎日が充実！



### ～リベラルアーツ学科の先生は今～



宗教学の古田富建教授が、ソウル新聞の日本語版タブロイド紙『テソロ』9号（8月2日発行）の「時論」コーナーに、日韓の交流に関する記事を書かれました。見出しは「等身大の韓国社会—日本の若者にいかに伝えるか」。



地球市民教育の岩崎裕保教授の共著書『環境教育と開発教育—実践的統一への展望：ポスト2015のESDへ』が、7月15日、筑波書房から刊行されました。岩崎教授は、第8章「3.11と向きあう開発教育—開発教育協会(DEAR)の試行的実験」を執筆。